

第7回 まちづくり常任委員会会議録

令和5年7月6日(木)
委員会議室

○会議日程

- 1 開会宣告(10時00分)
- 2 調査事項
(1) 令和5年度 組織機構改編案の概要について
- 3 その他
- 4 閉会宣告(10時32分)

○出席委員(8名)

委員長	4番	高橋	秀之
副委員長	1番	高橋	秀明
委員	2番	佐藤	忠志
委員	3番	深澤	博幸
委員	5番	植村	敦
委員	6番	無量谷	隆
委員	7番	齋賀	弘孝
委員	8番	西澤	裕之

○出席説明員

町長	野々村	仁
副町長	岩川	実樹
総務財政課長	早坂	敦
総務グループ主幹	伊藤	崇
総務グループ総務係長	森本	譲

○議会事務局出席者

事務局長	岡田	英樹
主任	横山	薫

高橋委員長

本日の出席委員は8名です。

定足数に達しておりますので、ただいまより第7回まちづくり常任委員会を開催します。それでは、調査事項に入ります。

調査事項、(1)令和5年度組織機構改編案についての説明ですが、前回の委員会において既に説明済みですので、省略いたします。

それでは、改編案について、皆さんからの御意見をいただきたいと思います。

意見のある方は挙手をお願いいたします。

深澤委員

先般、説明を受けたっていうけど、詳細については、ただ課が減らされたということぐらいしか理解してないんだけど、ちなみに今、職員の中で長期欠席者がいますよね。

復帰のめどは立ってるんでしょうか。

岩川副町長

今休職中の職員だったり病気休暇の職員が数名おりますけども、今の休職中、病気休暇については今、しかるべく心療内科等にもかかって、復帰に向けての準備をしているところです。と思っはいるんですけども、ちょっとこればかりは何とも言えない状態ではあります。

深澤委員

職員の長期欠席というのは公務員法でも定められて、1日でも復帰すれば、再度また休暇取れるという法律に当てはまるというか、それが該当するのかなと。

以前に東京都でもこのような手法でね、幌延町であったとは言えないんですけど、悪用してね、その期間アルバイトしてたというような前例もあって、幌延町ではそれはないと思うんだけど、問題は長期欠席による、管理職ですよ、今休んでる方。その指揮、命令とかね、そこに影響しないのか。

当然、今新しくなった課の課長に就任されてるのかどうか、その辺いかがでしょうか。

岩川副町長

確かに今、管理職で休職中の職員がおりますけども、ここにつきましては、課長の上位の職といいますと私になりますんで、私通して、町長とも連携を取りながら仕事の方はやらせていただいておりますけども、組織改編後どうするかということにつきましては、全体的な課長職の配置、異動等も含めて、その辺は考えていかなければならないなど。現状のままでいいとは思っておりません。

深澤委員

過去にも職員からセクハラとかパワハラで訴えられた経緯もあって、今、町職員の中でも外部からね、町内でなくて外部からも相当な人数が入ってきてると思うんですよ。

それで知らない土地に来て心細いというか職場に慣れない環境もあって、今国でも推奨してるメンタルヘルズ課、課がいいのか室がいいのか分からないんですけど、そういう職員のためのケアをする部署があってもいいのではないかなと思うんですけど、せっかく改編するんですから、そういうところの部署というのは考えてはいないのか。

早坂総務財政課長

実務の関係ということですので私の方からちょっとお話しさせていただきますけれども、基本的にメンタルヘルスといいたいでしょうか、そういったものの相談に関しましては、現在では総務財政課の総務グループ、ここを窓口として行っていると。要は福利厚生というような意味合いも含めてということになりますけれども、そちらで行ってるということでございます。

委員の方から今御心配されてる、町外から結構入ってるんじゃないかというようなお話ですけども、そのとおりです。

大体、感覚ではありますけれども、4人のうち3人ぐらいは、今までですね、4分の3ぐらいは町外の方が入ってきてるというような状況でございますので、やはり先ほど言われましたとおり心細いとかかっていうところ、結構あるのかなということもございまして、その辺りに関しましては総務財政課の方としても全面的にバックアップするといいたいでしょうか、相談を受けるというようなことも考えておりますし、また北海道の方でも心の相談窓口といいたいでしょうか、そういったものがありますので、そういったところへの連絡というものも表示しながら、何かありましたらそちらの方にも相談できますよというようなアナウンスもしているというような状況でございます。以上です。

深澤委員

最後にもう一つ。

今総務財政課長の方から職員のケアについては説明あったんですけど、もう少しきめ細かく、今後、職員の退職者が出ないような職場づくりをぜひやっていっていただきたいなと思います。

岩川副町長

今委員から御指摘のあったとおり、職員の心のケアにつきましては、やはり、今後、新たな管理になったとしても、総務企画課の方で所管しますので、できるだけきめ細やかにケアしていけるように努力してまいりたいと思います。

高橋委員長

ほかにありませんか。

(「ありません」の声あり)

私からいいですか。

この改編案って今出たんですけど、これって何で今この時期に出てくるんですか。

私の考えとしてはもう、大分前からこういうことを進めていかないと職員の定数というか、募集しても入ってこない時期が何年かあったと思うんですけど、そういう時期を迎えた時点でもうこれを考えてやるべきじゃなかったかなと思うんですけど、その辺を伺うのと、もう一つ、この機構の改編をすることによって、職員一人一人の仕事量って増えるのか減るのか、多分、改編すれば仕事が少し減るのが普通だと思うんですけど、その辺をちょっとお伺いしたいんですけど。

岩川副町長

組織改編については、直近では平成31年度、その前には28年度にやったわけですけども、当時というのは、確か課が、そのときも5課でしたかね、それを再編して、できる

だけ、あの時は企画部門ですか、その強化ということでやったわけですが、時期的なお話しますと、平成31年から既にもう4年が経過しているということで、3月の定例会や、たびたび常任委員会でも組織の在り方について、委員の皆様から御指摘も受けてきたというところで、町長、3期目当選されて以降、ルール検討はしてまいりました。そして、本格的に、やはり今まではどちらかというと理事者側からのトップダウン方式でやってきたんですけども、そこにはやはり我々も全て現場の隅々まで分かってるわけでもないので、今回については、きちんとその現場の声というか、課長職の声をきちっと組織改編の中に反映できるようにしようということで、町長もそのところは苦心されてまして、年度明けて、今年度に入ってから課長職で構成する検討委員会立ち上げてやってきました。

4月からずっと取り組んできて、5回ぐらい見直し会議というものを開いてきて、本当は6月の定例会に提案させていただいて、7月1日からということも描いていたんですけども、なかなかちょっと、いろんな協議というか検討事項が多くて、そこが間に合わなかったということで今に至ってるというような状況になっております。

ちょっと業務に関しましては、やはり年数たつと、どうしても仕事が変わってきて、新しい仕事だとかというのが出てきますので、どうしても課によっては業務に偏りというか業務量ですね、偏りがちょっと見えてきたなということもあって、仕事量自体は全体としては、一人当たりの業務量というのは減ってるとは思いませんけども、そのばらつきですね、1人に掛かる負担が軽いか重いかということろは職場によっても違いますので、その辺を少し課の改編によって、ならしていきたいなという考えがあります。

高橋委員長

もう一ついいですか。

仕事量そんなに変わらないというか、ばらつきがあるというのは分かりますけど、改編案で課を改編していくと、要するにこれは職員募集しても入ってこないというところで、入ってくれば仕事量は少しずつ減ってくると思うけど、入ってこないから仕事量は多分そんなに変わらないんじゃないかなと思うんですけど、職員募集に対する、ちょっと関係ないかもしれないんですけど、今までどおりの募集の仕方を続けていくのか、その募集の仕方も少し変えていかないとだめなような気はするんですけど、その辺はどういうふうに考えているのか、関係なければ関係ないでいいんですけど。

岩川副町長

確かに御指摘のとおり、今まで新規採用の職員に頼ってきた部分というのが多いんですけども、なかなかこの宗谷管内全体を見ても今応募してくれる新卒の方というのは、もう非常に減ってきてます。

募集の半分にも満たないような状況になってきてますので、私たちも社会人枠ということでやってきていますけども、前回やったときにはなかなか応募はなかったということで、今回ちょっとやり方を変えていますので、その辺ちょっと総務財政課長の方から御紹介させていただきます。

早坂総務財政課長

今回、今現在も職員の募集というのをかけております。社会人ということですね。

今回からマイナビと言って、ネットの中で若い人たちですとか、これらの人達が検索を

簡単にかけて、そういった求人が出てますよというところを簡単に見れるようなサイトがあって、当然料金は発生するんですけども、今回そこで募集をかけさせていただいたということでございます。

今募集中でありますけども、マイナビを経由して5名程度の募集といいたまいますか、応募があったということで、まだ面接等しておりませんのでどのような人材かというまではまだ分かっておりませんが、今までよりはかなり反応があるのかなというところで、それで今回補充といいたまいますか職員の補充ができればなというふうには考えております。

また、それと併せて、今までもやってきておりますけども、ハローワークですとかホームページですとか、そういったところでも積極的に職員の募集をかけながら、ちょっと裾野を広げていくというか、そういった形で職員の募集は今後ともしていきたいというふうに考えております。以上です。

高橋委員長

ありがとうございます。

ほかにありませんか。

無量谷委員

産業振興課がある程度集約されて商工と農業、建設という感じで、一つの形になるんですけども、これらの仕事の量というか、農業関係にしても、今1番農業に、1番、酪農の町といえどもかなり厳しい情勢の中で、これだけ圧縮されたらなかなか動きとれないんじゃないのかなって感じはするんですけども、その辺の察知というか、ある程度これ、元の方が動きやすいのかなという感じがするんですけど、この辺の集約の条件というか、それらについて、これ、どういう意味で圧縮されたのかなという感じがするんですけど、その辺分かれば。

岩川副町長

課自体は統合されたんで圧縮というふうに見えるかもしれませんが、仕事自体は圧縮してるわけではございませんし、人数を減らそうという考えもございません。

むしろ農業部門については、もう少し、今後、人材が確保できれば補強していきたいなというふうにも考えてございます。

そして、前回も申し上げましたけども、産業建設課の中で大きく農業部門と建設部門に分かれるということで、課長一人に負担がかかるということであれば、あるいは課長二人にするとか、担当課長とかね。あとは課長補佐職ですか、その人数を手厚くして業務の推進体制をしっかり保っていくということは考えたいなというふうに考えております。

佐藤委員

いずれにしても、もうこういうふうに、いろいろ庁内で皆さんで練って練って出てきた案だと思いますので、特別これに対して異論というかはないんですが、ただ一つ要望として、いずれこの形でまた、何年か当然、行かざるを得ないだろうし、行くしかないんだろうと思うんだけど、ただ、今の若い人たち、私も何回も言うように、補佐の人たちとか、なかなか課長職に上がっていくチャンスがないんじゃないかなと思って、課を減らすことによってね。

そういう機会もやはり与えてやらないと、こう集約化してやっていくのはいいんだけど、

やはりそういう人たちにもやはりこう、頑張ったら課長ぐらいに上げてやる、副町長言ったように、課長2人体制にする方法、副町長おっしゃったような方法もあるんだろうけど、そういうのも少し見ていかないと、やはり、やる気だとか、いろんなものも、やはりちょっと無くなるってわけじゃないんだろうけど、そういうチャンスも与えてほしいなと思って、当然、しばらくこのまま見ると、なかなか、このトップの方というのは変わらないんだろうなと思って見てる。そうすると下から上がっていくチャンスもなかなかないだろうと。主幹クラスも結構おりますので、そういう者の配慮をしてやる必要もあるのかなと。

それともう1点、高橋委員長からも言われたように、採用の仕方というのはどういうふうに、募集というのはどういうふうにしてるのかなと思って。

企業でしたら、私もそうですが、あちこち行ってハローワークも行く、いろんなところに行って頭下げていないかと、当然本社もどこもそうですが、ただ募集かけてるだけなのか、それとも天塩高校、苫前、羽幌、稚内もあるだろうし、豊富高校もある、それと旭川もある、大学もある、専門学校もある、本当は総務財政課長なのか誰か彼が行ってやってるのか、幌延はこんな所だよと。企業でしたら福利厚生がああなってますこうなってます、いろいろ、役所だからそういうものはないんでしょうけど、そういうものどういう状況なんですか。ちょっと教えていただければと思います。

岩川副町長

まず採用の仕方の方から御答弁させていただきますけども、新卒に関しては宗谷町村会の方で一括して募集しております。要綱まとめてですね。

そしてそれらの資料等については各学校の方へ郵送しているような状況になっていて、町村としては、ホームページに募集してますよということを告知するのと、そういった様式等を添付、張り付けているんですけども、本来ですと天塩高校や豊富高校、稚内ぐらいに学校訪問すればいいんでしょうけども、確かに、いかんせん地元の子が受けてもらっている数ってのは少ないのが実情なので、そういったこともしていかなきゃならないかなというふうにも考えています。

あと専門職員に関しましては、特に土木職については、毎年、土木系の学科を持っている高校と大学の方へ直接訪問して、受けさしてもらえませんかとお願ひしていますが、ここは非常に厳しくて、気持ちは分かるんですけども、まず民間の方、先に埋まっていて、そのあと公務員志望というのはもう数パーセントで、しかも公務員志望の方は、やはり札幌近郊。ですから、もちろん道北の市町村ですと、もう、ほとんど地元の子で、地元に戻りたいという子ぐらいでないと、なかなか難しいですねということで、はっきり言われてますので、我々もちょっと普通高校の方も少し足を運んで、受けてもらえるような努力はしていきたいなというふうには考えています。

あと課長職の昇進ということですけども、ここには4課ですけども、4課で今8人の課長がいるわけですけども、適格者がもし出てきたならば、そこはやはり課の中に、例えば何々担当課長というような職を設けて、課長昇任ということもあり得るような作りにはしたいなというふうには考えております。

佐藤委員

副町長、今説明していただきまして、大体分かりましたですけど、ただ社会人枠しか今

ないんだろうけど、当然その社会人枠である程度埋めて行く、当然それをまた続いていくと、次の者と若い人のギャップが出てくるんでね、何とか追っかけながら、社会枠入れると平行して若い人を入れていかないと、また何年後かに空いちゃうってことになっちゃうものだから、そうすると常にまた社会人枠で何とか収めていかなきゃならないことになってくる。

そんなことは、僕に言われるまでも、皆さん課長も皆分かってることだと思うんだけど、どうしようもなくこうなってるんだろうから、そこら辺を一つ何とか全力を挙げて、とにかく新卒、幌延に来たら奨学金でも授業料でも何でもただにするとかでもないとなかなか今副町長言ったように、うちの企業も皆そうですけど、来ないというのはもうこれは事実なんでね、相当これ厳しいんだろうけど、何とか一つ頑張っけて入れていただきたいなと思いますので、よろしくお願いします。

岩川副町長

確かに委員おっしゃられるとおり、やはり新卒も入れていかないと、本当に組織全体の年齢構成、バランス保てなくなりますので、本当に力を入れて頑張っけていきたいと思いません。

高橋委員長

ほかにありませんか。

深澤委員

今副町長の答弁ではこの担当課長が、現状ではこれ3人しかいないという受け答えでいいのかな。

新たに増やす要素があるんだったらという意味は答弁しましたよね。

現状ではこの4人しかいないということ。

(「8人だ」の声あり)

新規になってから。

岩川副町長

今、町長部局の4課のほかに、今は4課じゃないですけど、今、総務財政課、住民生活課、保健福祉課、企画政策課、産業振興課、建設管理課ということで、町長部局では6人の課長がいます。そして、そのほかに議会事務局長と教育委員会次長ということで、これで8名の課長なんですね。

そしてこれを4課にした場合に、今考えているのは、この4課の中で担当課長というのを、どこか一つか二つ、それと診療所事務長と議会事務局長と教育委員会次長で課長職を置こうかなというふうに考えてますので、4課の中で5人の課長が置けるかなというふう

に今のところは考えております。

深澤委員

今日提案してるということですね、今後の話、増やすんでないかなんて話では我々も納得できないし職員も納得できないんじゃない、これ。

きちっと増やすんなら増やすで言ってもらわなかなったら。

岩川副町長

現状では、10月1日の時点では増やすということは考えてませんが、今後、将来

的に課長的確、課長補佐職の中で課長相当の技能、力量があると認められる人が昇進する
とした場合には、丸々担当課長というような肩書で昇進することもあり得るという意味で
申し上げたつもりなんです。

深澤委員

何かよく理解できないんだけど、現状では今、8人かい、それが組織編成したら実際は
何人になるの。

(「8です」の声あり)

どこで、数。

企画課に2名ということ。

岩川副町長

複数の課長がいる課というのはまだ決めてませんが、町長部局4課の中で、5人の
課長。だからどこか1課が複数の課長になるだろうなというふうに考えています。

深澤委員

だからどこかと言われても、それじゃ納得できないでしょうということなんです。

(佐藤委員「ただ、先ほど言ったのは、今後の要請として、若い人のそういう希望の持
てるようなものも考えてほしいと、ただ、先ほど」)

だから佐藤君も言っているとおり、職員の働く意欲というの失われるんでないのとい
うのが危惧されるんですよ。だからはっきりしなかったら、現状今8人いて、課減らされて課
長職が減らされたら俺の処遇をどうするのかって気にならん。

(「課長職を減らすわけじゃないんですよ」の声あり)

いや、だからきちっと数字出せばいいでしょう。

編成した後にというのがどうもちょっと引かかるんだよな。

岩川副町長

今の中では8名の課長がおりますので、その課長はこの中でどこかには必ず張り付けと
言えば変ですけど配置されますよということではいるんですが、この課としては4課、名前
としてはあるんですけども、その中で、例えば総務企画課に総務企画課長がいる、ほかに
企画担当課長がいるというようなイメージですね。

産業建設課でいくと、産業建設課のほかに、例えば建設担当課長がいるだとかというよ
うな、そういったイメージで、今回は、今いる現状8名の課長の中で張り付けを考えてい
きますということです。

ただ、将来的に昇進の道を作るためには、例えば、今まで課長職が一人しかいなかった
所に、もしかしたら、業務が増えただとか、ここに力を入れていくだとかといったときに
担当課長を設けるだとかというふうにして、昇進の道は確保していけるかなというふう
に考えてます。

深澤委員

大体分かってきたんだけど、この各欄に課長補佐というのが二人書かさってるんだよ。

だけど、企画課には管理職というか課長職が無いから、何か不自然に見えたんだよ。

補佐は2名いるけど総務企画課しかないから、課長1人かなという見方になってしまう。

(岩川副町長「基本は一人です、基本は」)

どうも分かりにくいんだよな。

もう1点、最後に。

先ほどから職員募集の話が出てましたけど、はっきり言ってね、幌延の役場というのは、ブラック企業って言われてんだよ。隣接町から。

隣接が集まらないのはそこなんだわ。

何で言われてるか、その辺の現状ね、役場内部できちっと調査なりした方が今後のためにもいいですよ。

要するに、退職者が出たり、短期間でね、先ほど言った職員に訴えられたり、セクハラ、パワハラがあるんでないかというのが、憶測で隣接町村からそんな目で見られてる。

だから天塩高校にしても豊富高校からも入ってこないというのはそこなんだわ。

子供が言うんでなくて親が言ってるのさ。

そういう風潮もあるんでその辺を払拭していかなかったら、いくら努力しても職員集まらないよ、新卒では。

何か役場内部でそれなりの検討なり、それをもみ消すような方法も執っていかなかったら新卒は難しくなりますよ。

厳しい言い方かもしれんけど、そういうこともあるということで。

高橋委員長

ほかにありませんか。

いいですか。

(「はい」の声あり)

それでは、令和5年度組織機構改編案については、以上といたします。

次に、(3) その他ですが、皆さんから何かありますか。

(「ありません」の声あり)

無いようですので、以上をもって第7回まちづくり常任委員会を終了いたします。

どうもありがとうございました。

(10時32分 閉 会)

以上、相違ないことを証するため署名する。

委員長 高橋秀之

以上、記録する。

事務局長 岡田英樹